

二月の保育

生活訓練

倉橋惣三

二月といへば、年長組の子にとつては、あとも二ヶ月で、國民學校の兒童になる、いはゞ卒業間際といった譯である。但し、だからといつて何もあはてることがはないが、先生方としては、それが氣にならずにはゐられまい。「そんなお行儀の悪いことで、國民學校にあがれますか。」幼児が理屈屋なら、あがれるもあがれないも、義務教育ですからねと答へそうな言葉が、つい先生方の口から出たりする。それ程、氣になるのであり、それも無理からぬことである。

國民學校の低學年教育の態度は、昔のやうに子どもに高飛び一段を無理強ゐるものではない。新入學兒童としての理解も、寛大も、あしらひもある。子どもは、どこまでも、わざとらしく準備されてゐる必要はないのである。しかし、徐々にせよ、躰は、新しい國民學校の教育方針である。それを受け易く用意せられてゐることは、國民學校の方ではなく、その子のために仕合せなことである。幼稚園は、その點で、國民學校の入學に準備してゐ

るといへる。勿論、國民學校への準備といふことだけが、幼稚園の必要ではなく、もつと廣い意味で、その子の基本教育をしてゐるのであるが、その結果は、國民學校入學の時に先づあらはれるのである。

そこで、今まで續けて來た躰を、こゝでまた強化する必要がある。必要といふよりも、機會であるといつた方がよいかも知れない。幼児も目の前に國民學校入學の樂しみを置いて、子どもなりに緊張してゐる時だからである。

一には、登園時間の正しさである。幼稚園としては、そう厳しくしなくてもふこともあらうが、學校では遅刻は絶対にゆるされない。それをよく躰けて置かなければならない。尤も、朝の遅刻は幼児よりも家庭にある問題で、家庭を躰けるといつた方が適切なのであるが、遅刻の氣まりわるさ、自分としての不愉快さを幼児にまひさせぬようにしたいのである。此の趣旨を家庭によく徹底させると共に、遅刻のよくないことを、幼児に感得させる必要がある。兎に角く、遅刻まひは、幼稚園へ上らなければないことで、幼稚園へ上つた爲に却て、こんな惡癖もつくのであるといふ、妙な論にはなり兼ねない位である。

二は、自分の持ちもの、始末を自分でするである。帽子、辨當、傘、外套といつた類のものを、正しく自分の置き場に置き、きまりよく、整頓し、置き忘れたり、他のものと取り違へたりしない癖である。そんなことは氣をつかさへすれば容易く出来るといふこともあらうが、その、氣をつける躰が大切なのである。持ちも

のに對する投げやり、ぞんざい、そまつ、ふしだら、それはたゞ物を大切に、人手を煩はさぬ爲といつた躰けであるばかりでなく、性格そのもの、陶冶になることである。たとへば、落ちつき、稠密、周到といった風の性格の養成の基本になる。物を整理し得ることは、心を整理し得ることである。

三には、行動を他と共になし得る躰け。これは、大體幼稚園で毎日してゐることで、大抵の子どもは當然その躰けが出来てゐる筈であるが、どうかすると、その出来ない子がある。行動を共にせぬとふことは、これからはいる學級の集團訓練に甚しく妨害になる。みんなが集る時は、自分も急いで集合する。みんながきこひとしてゐる時は、自分もきこひとしてゐる。みんなが行列を作つてゐる時は、自分もその行列の中へはいる。たとへばかうした類である。ところで、斯うした躰けのねらつてゐるところは、さういふ習慣が行動の上で養はれることであるが、もつとこまかにいへば、他と行動を共にすべき時に、それをしないのであることを平氣でなくする躰けである。所謂變人といふ型は、これが平氣なのである。平氣以上、それが快であつたりするのである。そんな變り性にならないやうに心持ちを躰けて置きたい。

四には、先生の言ふことを、よく、正しく聽くことの躰けである。うはのそら、よこむき、いゝかげん、さうした惡習は、幼稚園のものとしても、教育を受取らせ難いことになるのであるが、國民學校に入つては一段と損なことになる、正しく授業を受けるといふことは、國民學校兒童の必須の要件であるが、それは、幼児からのこの躰けなしには出来ない。そして、この躰けのために

は、一應きちんとした訓練をする必要があらう。自發自由になを託して、許すべからざることを許すことが幼稚園には往々あるが、さうした氣まぐれでは、學業を受けることは到底出来ない。勉強する習慣といふものがいつも尊重せられるが、先づ大切なのは、よく學ぶ習慣である。

自由遊戯

上遠文子

厳しい寒さにも、すっかりなれて、むしろ忍びよる春の感觸を求める此頃であります。

室内遊戯も上手に遊べる様になりました。室の中の何時も變らぬ一定の御道具に子供達は満足出來ず、自然とそれらを用ひて工夫をして遊ぶ様になります。その一つとして、椅子が汽車になります。電車になります、又女の子では澤山ならべて、おマ、ゴトの御部屋にもなるのです。始め、お机やお椅子は用ひない事ときめてなりましたが、子供達の工夫力のすばらしさと、その愉快さうな喜びに負けて、此頃はまあ、と大目にみてなります。その點、箱積木なる一邊三〇厘の立方體の積木、一邊、六〇厘と、三〇厘の長方形のものその他三角、同じ位の板等があますと子供達標準の實物大のものをつくる事が出來ますので、とてもよく、椅子等用ひなくてもよろしいでせう。子供達は體と同じ位の大きいものを、えんさく／＼と運び、防空壕だの、戦車だの、汽車だのと製作してゐます。出來上つたものは、自分達が樂に實用的に用